

様式（第5条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第2回行田市郷土博物館協議会	
開 催 日 時	令和3年3月16日（火） 開会：午後 2時00分 ・ 閉会：午後 3時20分	
開 催 場 所	郷土博物館2階 会議室	
出席者（委員） 氏 名	芙蓉良明 梁瀬里司 若松良一 板垣時夫 大山能則 堀秀雄 宮本伸子	
欠席者（委員） 氏 名	柿沼耕一 重田正夫	
事 務 局	館長 鈴木紀三雄 主査 浅見貴子 主任 岡村恵美子 主事 澤村怜薫 岡本夏実	
会 議 内 容	令和2年度下半期事業報告 令和3年度事業計画 その他	
会 議 資 料	令和2年度第2回行田市郷土博物館協議会次第 令和2年度第2回行田市郷土博物館協議会資料	
そ の 他 必 要 事 項	傍聴人 1名	
会 確 議 録 の 定	確 定 年 月 日	主 宰 者 記 名 押 印
	令和 年 月 日	<p style="text-align: right;">⑩</p> <p style="text-align: right;">⑩</p>

発 言 者	会 議 の 経 過 (議題・発言内容・結論等)
事務局 (浅見)	<p>* 館長あいさつ * 会長あいさつ</p> <p><b>議 事</b> それではこれより議事に入る。進行は会長にお願いする。</p>
若松会長	議事に入る前に、本日の協議会については公開をお願いしている。公開について異存はないか。
委 員	公開としてよい。 (傍聴人1名)
若松会長	また本日の議事については議事録を作成する予定である。議事録の最後に確認の署名を2名の方から頂戴したい。この場でどなたかをお願いしたいが、事務局より提案はあるか。
事務局 (浅見)	それでは、名簿の順番で梁瀬委員、大山委員にお願いしたい。
若松会長	<p>それでは、そのようにお願いする。 では、次第に従って議事に入る。 始めに(1)の令和2年度下半期事業報告について事務局より説明をお願いする。</p> <p>(事務局より、管理部門 資料を説明) (事務局より、学芸部門 資料を説明)</p>
若松会長	ただいま事務局より説明があったが、どなたかご質問等があったらお願いします。
板垣委員	足袋資料の整理ということで松岡家文書955点整理途中ということだが、こちらの概要を教えてほしい。また、常設展示の展示替で「幕末の動乱」とあるが、コレラ関係の刷物ということで現在

	<p>疫病対策にどのような歴史的、民俗的に対応したか皆関心を持っていると思うので紹介いただきたい。</p>
<p>事務局 (館長)</p>	<p>立身足袋について、市内にあった廃業して暫くたつ足袋屋である。一昨年度寄贈になり、足袋関係の資料整理は年度内に整理完了予定である。内容としては戦後の足袋関係の経営に関する資料である。併せてミシン等も寄贈いただき、そちらの整理は終了している。</p>
<p>事務局 (澤村)</p>	<p>行田のコレラの幕末、明治期の蔓延状況についてだが、他の地域では安政の大地震が起きた頃、自然災害が発生したと同時にコレラが江戸を中心に蔓延したことが知られている。行田の街中や農村部においては、安政期において伝播はしているが江戸などで爆発的にみられたような感染拡大はみられなかったということがわかってきた。それに対し明治期の方が同じコレラが拡大している様子が分かってきた。ただ、ここで提示した資料については文字だけだと感じ取るのに不便があると思い、あえて江戸でコレラが蔓延した時に流布した刷物を展示した。蔓延したことが分かる刷物と併せてもう一通はどのようなことを施せばコレラが治るか、防げるか、民俗的部分が分かるような資料を展示させていただいた。今後も活用を考えている。</p>
<p>若松会長</p>	<p>コレラについては現在のコロナと対照されて展示の中で皆さんに学んでもらう材料として適していると思う。</p> <p>他にどなたかご質問はあるか。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>資料の貸出について、九州国立博物館に長く貸出されていたが今回戻ってきた理由、経緯、また今後どちらかに貸出される予定があるか伺いたい。また「石城日記」パネル新設とあるが、今後どのように広めていくのか予定を教えてください。</p>
<p>事務局 (浅見)</p>	<p>九州国立博物館の埴輪は同館の開館当初より、常設展示室で酒巻15号埴器材埴輪2点と、旧埼玉考古館収蔵資料であった人物埴輪3点、馬型埴輪1点、北大竹遺跡から出土した馬型埴輪1点計8点をお貸ししていた。渡来文化との関係を中心に展示す</p>

	<p>るという展示構成の一部としてお貸しした物である。1年ごとに借用期間の更新を続けてきたが昨年埼玉古墳が特別史跡になったこともあり、旧埼玉考古館の資料については埼玉古墳群の周辺で採集されたものということで、当館でも活用を図るため返却してもらった。今後当館で展示、もしくは近隣の他館で貸出要望があったら応じる形で活用を図っていきたい。</p>
<p>事務局 (澤村)</p>	<p>「石城日記」のパネルについては、現在も展示中のものが少し傷みが出てきたため、そちらを直すことになる。「石城日記」については現在慶応大学文学部に所蔵しており、以前は図書館が所蔵していたが、文学部に移ったことにより全国各地の方に利用していただきたい意向があるようだ。当館とも友好的な関係を近年築きつつあり、等身大の人間を実感していただく材料として教育普及の為に今後も活用していきたい。</p>
<p>若松会長</p>	<p>資料貸出の規定、期間、内容等はどうなっているのか。今後長くお貸しする場合、交換展示でその地方の資料をこちらに借りて普段見ることができない資料を得られるような貸出は相談できないか考えを伺いたい。</p>
<p>事務局 (澤村)</p>	<p>貸出期間の規定に基づくと、原則30日間だが館長が特に必要と認めた時に延長ができることになっている。</p>
<p>事務局 (館長)</p>	<p>九州というと行田の資料を常設でという機会がなかなかないのでおそらく最初に貸した時こけら落としの常設展示のメインの一つとして貸出したように記憶している。九州というと関東に比べ埴輪の数が極端に少なく、九州の方々は埴輪の現物を見る機会が関東の人に比べると少ない。尚且つ国の博物館ということもあり常設展示室の主要資料として長く貸していたが、埼玉古墳群が国の特別史跡になったということもあり今回戻ってきた。</p>
<p>若松会長</p>	<p>直接的なその場での資料交換は運搬費の問題もあり難しいと思うが博物館は、特に公立館はお互いさまで成り立っているところもある。今後例えば九州国立博物館にある資料を優先的に貸してもらおうとかお互い遠慮なくパイプを生かしていかれることを望む。教育普及については、学校からの見学で中止になったものもある</p>

	<p>が、行田のすごさ、違うところを知らないで新しい世界に出て行った時にふるさとのことを自信を持って語れないので、ぜひ学校でも館としても万全の体制をしいた上で丁寧に対応してほしい。学校の先生からご意見を伺いたい。</p>
芙蓉委員	<p>11月26日に忍中学校1年生101名全員館を訪問し学習した。生徒たちも小学校の時から見学させていただいているが、行田の歴史を自分でテーマを決めて博物館で勉強させていただく方法をとった。面白かったのは小学校の時にも見ている資料で親しんでいるものだが、繰り返し繰り返し年が上がるにしたがって同じ所を訪れても子供たちには大変素晴らしい発見があり深い学びをすることができた。特に学芸員さんの説明によって子供たちが視点を各学習に生かすことができた。</p>
若松会長	<p>他に希望はあるか。</p>
芙蓉委員	<p>子どもによっては年代ごとに切り口を見ると学びが博物館にはたくさんあることに気がついているので、繰り返し利用させていただければありがたいと思っている。</p>
若松会長	<p>色々な切り口でそのつど子どもたちに響く話を学芸員にさせていただきたいとのことであるがいかがか。</p>
事務局 (澤村)	<p>非常にありがたいご意見をいただいた。ドラマとかすぐお子さんや大人の方でも目にするものと比較することが、郷土のことができればすぐふるさとの再発見につながる。すぐコミットできる問題だと思うので早速取り組んでいきたい。</p>
堀委員	<p>忍中の先生に関連して「総合学習の社会科見学等への対応」ということで、積極的に博物館からも呼びかけていただけたと思うのだが、埼玉の例をとるともう少し入り込んで改めて埼玉の歴史を詳しく知り、誇りをもってこれから成長していただければと思う。小学校でも総合学習の一環で郷土を知るということで、埼玉に伝わる郷土芸能をやっており、地域に生きている誇りを感じさせて将来に繋げていくということでこれからも続けてほしい。学校に対して後押ししていただければと思う。必要に応じ地域人として</p>

	<p>応援をさせていただきたい。行田の実情からしてやむを得ないと思うが、民俗関係のものをもう少し取り上げていただきたい。例えば獅子舞は江戸時代から続いている 6 団体があり地域の方は知っているが、行田市全体としても知っていただく為に何等かの形で企画していただけるとありがたい。</p>
<p>事務局 (澤村)</p>	<p>学校への呼びかけについては、「このような対応をさせていただくことができます。」という形で昨年度より実施させていただいており、それにお答えいただく形で学校より出張博物館や学校見学の申出をいただきありがたいところである。</p>
<p>堀委員</p>	<p>須加小に勤めていた時には循環バスが今より多く出ていて利用できたが、今は交通事情で計画したいが躊躇している学校もあると思う。輸送手段も相談してほしい。</p>
<p>事務局 (澤村)</p>	<p>即座にバスを出すということにはできないが、暫定的な手段としてこちらから出向いてあるいは物をもっていくという形を現状では取らせていただいている。その実施の中で「行田市のうつりかわり」という単元はあるが行田市内でも地区ごとにそれぞれの特徴や特色など素晴らしいものがある。皆さんの協力を得ながら今後このような学習機会に反映させていきたい。これが積みあがってくると展覧会という形で成果の公表にも繋がるので長期的な視野で考えていきたい。</p>
<p>若松会長</p>	<p>今後の民俗学の調査・展示などの計画について伺いたい。</p>
<p>事務局 (岡本)</p>	<p>今年度下半期、行田市内の足袋に限らず履物産業ということで民俗関係の企画展を計画していたがコロナの影響により延期となったが調査については継続している。当館も開館当初から足袋関係の資料を民俗の資料ということで中心に収集整理を続けてきたが、行田市内足袋以外にも履物産業はあり、例えば南河原のスリッパ産業もある。今後は足袋に限らず広範囲に視野を広げ調査研究を継続していきたい。ゆくゆくは学校関係の博学連携事業等でも民俗の分野のことを取り扱う機会もあると思うので、折々に少しずつ調査研究を進め、いずれまとまった形で成果としてお目にかけるよう続けていきたい。</p>

若松会長	芸能関係についてはいかがか。
事務局 (岡本)	獅子舞については上演されているところに何度か足を運んだことはあるが、本格的な調査はまだ行えていないので今後の課題となる。
若松委員	家庭教育関係で梁瀬委員何かあるか。
梁瀬委員	収蔵品の関係で伺いたい。行田で古い建物が結構あり最近取り壊されているのを見るが、そのような時、貴重な資料等はないか調査はするのか。
事務局 (館長)	情報が入ってくれば対応できるが、現実として個人宅ということもあり全てに網を張るのは難しい。博物館に関係している方々には情報があつたら教えていただくようにお声がけはしている。以前不動産屋から市内旧家を壊すという情報があり調査をした結果、博物館で資料を引き取ったこともあった。できるだけアンテナを高くして情報収集に努めたい。
大山委員	毎年多数の資料寄贈があると思うがいかがか。
事務局 (館長)	まず整理についてだが、今年度事業がかなり変更になり体験学習と普及事業が中止になったこともあり、担当していた会計年度任用職員が資料整理を集中してできたこともあり整理がかなり進んだ。収蔵場所についてはこれから関係各所と調整していきたい。
大山委員	寄贈について、断ることはできるのか。
事務局 (館長)	同じものが来た場合はお断りすることもある。館蔵資料の内容を見ながら収集を進めている。
若松会長	収蔵庫の増築は難しいか。
事務局 (鈴木)	難しいと思われる。
若松会長	他に質問はあるか。

	<p>(1) の令和2年度上半期事業報告については終了する。次に</p> <p>(2) の令和3年度事業計画について事務局よりお願いします。  (事務局より、管理部門 資料を説明)  (事務局より、学芸部門 資料を説明)</p>
大山委員	<p>小中学生対象の映画会は続けるのか。今の子どもは色々な媒体を通して映像は見ているので、映画やるから博物館へ行こうという時代でもないと思う。違うものを考えてもいいのではないか。</p>
事務局 (浅見)	<p>映画については16ミリフィルム映写機で上映している。ここ2、3年子ども達にとっては、映画より映写機自体が資料になりつつある状況にある。映像については「忍城の鯨」と「最後の空襲熊谷」を上映している。「忍城の鯨」は御三階櫓の上に乗っている鯨のメイキング映像となり、映像フィルムのみ保存となっており、貴重なものである。毎年上映しているがお客様から好評となっている。子供だけでなく、高齢者の方、一般の方にも参加いただいている「熊谷の空襲」については終戦記念日の前後に上映している。平和教育の一環も担っている企画となっている。フィルム映画が他にないかということだが当館所蔵が何本かあるが歴史のものとなっており内容が古くなってしまったということもあり現在この2本となっている。</p>
若松会長	<p>参加者がいるということで今年度も引き続き行っていくということによろしいか。</p>
宮本委員	<p>16ミリフィルムでしか保存されていないのであれば予算をとってデジタル化してもよいのではないか。この4月から学校ではGIGAスクール構想があると聞くが、博物館でやっている子供向けのキッズミュージアムやコンテンツを流してあげられるとよいのではないか。構想としては各小学校で配信するものもあるが、あるコンテンツを作っておいてどの小学校の子どもでも見ることができるように考えていると聞いている。</p>
堀委員	<p>博物館から遠い学校の場合タブレットで見ることに、発信することできれば交通手段を考えなくてもよい。</p>



若松会長	タブレットの他にホームページの充実もあるが、私としては本物を見に来てくれる子どもが減る傾向にあるので、どちらかに偏らず来てもらうのが一番だが、難しい子どもたちのためにそのような手段を運用していくのが今の時代なのかなと思う。
芙蓉委員	デジタルコンテンツも大切だと思うが、学校現場としては両方必要で実際のものを見た時の感動があり生の解説を聞けることがありがたい。バランスの問題かと思う。
事務局 (浅見)	博学連携検討委員会で先生方より、利用できるものをとという要望もあり博物館として簡単にできるのは画像で所蔵している写真を提供することである。動画配信についてはTV行田の「うきしろ瓦版」で流している資料解説の動画は、市のホームページでもアップしており利用できるのではと検討している。博学連携展示についてはコロナの関係で見学できない学校もあり何等かの形で展示内容を学校にお渡しできないか考えている。
若松会長	他にご意見や助言はあるか。
宮本委員	収蔵庫がそろそろ満杯ということで、一方行田市の人口、子どもたちが減っており、学校統合の話も多少出ていると認識している。例えば学校は耐震補強されていて使い続けられる建物が場合によってはあると思うが、そのような所の一部は収蔵庫として使わせていただき、一部はその地域の民俗の資料を展示しつつその方々がひとつの公共施設として使えるような方策も考えたらいかがか。
若松会長	星宮小など比較的近くに廃校予定があるが検討してはいかがか。
事務局 (鈴木)	実際他の博物館でも廃校や空き教室を収蔵庫に転用している所もあるが、ここだけでは決められない。
板垣委員	私は市町村でやっけていて、廃校でやっていた経験があるがこの場では博物館をきちんと運営するにはどうしたらよいかということで、本来の収蔵庫を求めるべきで、廃校利用は財政や少子化等の理由でやむを得ずの代替であり、最初からそのような考え方を協

<p>若松会長</p>	<p>議会としてすべきではないと思う。</p> <p>簡単に答えが出る問題ではない。一次選別二次選別、収蔵の規模、施設の防災上の限界等もあるので、いろいろ勘案しながら館としては収蔵庫の問題を一度に地方の小学校へもって行くよりなるべく近くに専属ものを用意してもらうのを一番の選択にして、次善策として仮のものだが公共の使用しなくなった施設も利用しようということで今後重要な検討課題になると思う。</p> <p>他に何かあるか。</p> <p>(2) 令和3年度事業計画についてはこれで終了する。</p> <p>最後に(3) その他について事務局より願います。</p>
<p>事務局 (浅見) 若松会長</p>	<p>(3) その他について説明</p> <p>(3) その他について何かあるか。</p> <p>なければ以上で議事は終了する。皆様のご協力で議事がスムーズに進行したことに感謝を申し上げたい。では、議長を下ろさせていただきます。</p> <p>本日は長時間にわたりご審議いただき感謝する。</p> <p>※博学連携展示見学</p>

